

評価項目	評価内容
I. 教育理念・教育目的・教育目標	<p>学校の教育理念・目的・目標は看護教育の考えや学校の特色を表している。教育理念・目的・目標の掲示や学生や講師へのシラバスの明示と説明に加え、本年度は卒業記念品として額装された教育理念を1Fエントランスに設置することとなった。学生だけでなく、教職員・外部講師への意識づけの効果はあると考える。又、カリキュラム改正にむけて評価検討し、設置主体や社会のニーズに即した当校の教育理念・目的・目標の準備は整った。</p> <p>教育目標は教育活動のゴールが読みとれ、その内容と卒業生像に一貫性がある。ディプロマポリシーで示された卒業時の到達目標となり、目指すべき看護師像が明確になっている。今後は学生・教職員の周知だけでなく、実習先や外部講師への発信も必要となる。</p>
II. 教育課程	<p>外部からの学校評価では、医療環境等が大きく変化し続ける松阪地区の特徴をふまえた科目の追加も期待したいとの声もいただいていた。そこで、新カリキュラムでは新たな科目を設置し、より地域の特徴をふまえ学びを深めていく内容としていくよう検討した。常に新しい情報を得て教育課程に取り入れていくことができている。</p> <p>今年度は教員の人員不足に加えコロナ感染症の影響で業務が煩雑となった。教員の負担が大きかったが、年度末に教員2名の増員があり、教員研修を終えた教員が1名加わる。教員間での連携・協働をさらに徹底していく。</p> <p>また、コロナ禍のもと、各施設と連携を取りながら、状況に応じて実習を進めることができた。臨地実習が中止となった際は、学内実習版の指導案を整え突発的な変更にも充分対応することができた。また、学内実習では、Zoomを活用し臨床と学内をつなげることでカンファレンスを通して指導者に直接助言をいただき、深い学びが得られた。</p> <p>今後は、教員と実習指導者との連携により、学生自らが考え判断し、指導者に相談していけるよう、自律心を育成していくかかわりが必要である。</p> <p>また、カンファレンス室の確保や実習の必要物品が不十分、指導者以外の病棟スタッフの協力が得られないなどの施設があり、学生の実習環境が整えられていない現状があった。施設によって差が大きくなっているという現状もある。この件については働きかけが必要である。</p>
III. 教授、学習、評価過程	<p>新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったが、授業形態は対面授業を基本としながら、一部課題や遠隔授業に置き換え実施できた。また、演習も実施困難な状況であったが密とならないよう方法を工夫し可能な限り演習を行うことができた。学生の意見をもとに遠隔授業に必要な機器類も導入され、学習環境も整えることができた。例年と比べ授業形態の変化はあったが、各学年の教室配備、学習環境の整えなど柔軟に対応できたと考える。</p> <p>シラバスへの指導方法の明示、三観を明確にした授業案の作成、初回講義時の授業計画の説明、学生による授業評価は継続的に実施できている。教員間でのサポート体制もとれている。次年度も継続できれば良いと考える。</p> <p>教員は評価結果および学生からの講義評価をもとに授業改善に取り組んでいる。外部講師に関しても半期ごとに学生による講義評価結果を郵送している。その結果、総合評価の改善がみられているが一部評価が低下している科目があるため授業改善に向け講師に働きかけていく必要がある。</p> <p>評価方法については授業形態に合わせて、筆記試験、レポート、授業参加態度、グループワーク参加状況、振り返りシートなど多様な方法で評価を行っている。</p>

IV. 経営、管理過程	<p>定期的に運営会議が実施され、管理者より松阪地区医師会の経営や運営について説明がなされ、全員が周知できている。新型コロナウイルス感染に対する県の補助金への申請も行われ、遠隔授業などの学習環境（DVD、モデル人形、WIFI等）も整えることができた。例年より支出が増えたが、松阪地区医師会から必要な資金が出され整えられている。今後はそれらの教材を活用し、学習の質を向上していくことが課題となる。学校設立より21年経過している。経年劣化もあるが、速やかな修繕や消耗品の交換は常にできている。来年度も校舎外壁修繕、フロアマットの張替えやドアの修繕が計画されている。</p> <p>今年度はZOOMを使用し学校案内などの広報活動を行った。学校紹介の動画は閲覧回数も多く効果的であった。今後も学校案内やホームページを充実させ、広報活動を行っていく必要がある。</p> <p>医師会としての看護学校将来構想について初めての会議が行われた。今後松阪地域の看護師の需要を元に長期的な計画を進めていく予定である。</p>
V. 入学	<p>入学者選抜についての考え方は、学校運営に関する諸規定、看護学校養成所案内、募集要項への提示は継続できている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症や、少子化、大学進学志望者の増加等の影響もなく例年通りの学生確保となった。動画配信や進路ガイダンス・模擬授業が効果的であったと考える。高等学校へのガイダンスも遠隔で実施するなど、積極的に行っている。</p> <p>学校行事や講義・演習が縮小になったことで、ホームページへのトピックスの更新数が減少した。その結果、閲覧数が減少したため、次年度はトピックスの更新数を増やし、学校のアピールを工夫して行っていく。</p>
VI. 卒業、就業、進学	<p>卒業時の到達状況の把握・分析は例年同様に実施できている。個々の学生の卒業後の実践状況は、9月に実施し就職先の上司に評価をしていただいた。これを教育課程にフィードバックし、基礎教育の充実を目指し新カリキュラムにも生かしていきたい。</p> <p>実習病院との連携は、継続してできている。次年度も実習病院との連携会議が開催予定であり、情報交換を密に行いながら看護基礎教育の充実を図っていく。</p>
VII. 地域社会、国際交流	<p>コロナ禍においても可能な範囲で地域社会のニーズの把握や協力、地域内の諸資源を活用しながら学習を継続することができた。</p> <p>地域社会への貢献では、8月開催の日本看護学校協議会の研修の際の会場提供や地域の小学校への新生児モデル人形の貸し出し、クリニックへの妊婦体験ジャケットの貸し出し等、地域のニーズに応えることができた。学校での様々な取り組みをホームページで発信しながら地域のニーズを充足できるよう連携を続けていく。</p> <p>学生の国際的視野を広げることを目的に科目設定をしている。文化人類学は、大学の国際学部の准教授として多民族の文化を専門としている講師に変更した。また、次年度より、外国語の講義を現行の中国語・ポルトガル語から中国語・タガログ語へと変更する。これは、松阪地域に東南アジア系の人々が多く在住し、実習でも接する機会があるためである。これにより、より地域で生活する在留外国人に興味を持つことにつながると考える。</p> <p>今後は県内在中の外国人留学生等と交流する機会も得られるようにしていく。</p>
VIII. 研究	<p>研究の体制について、財政的・環境的には整ってはいるが時間の確保が困難であり、研究には至っていない。今年度予定していた大学との共同研究は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施することができなかつた。しかし、年度末に研究計画書が提出される予定であり、次年度は研究が進行していく。研究へのサポートを行うとともに、それによる教員への意識向上など波及効果を期待する。</p>

R 2年度評価項目ごとの点数

松阪看護専門学校

評価項目	R2年度 評価点数	R1年度 評価点数	H30年度 評価点数
I. 教育理念・教育目的・ 教育目標	3.0	3.0	3.0
II. 教育課程	2.8	2.6	2.6
III. 教授、学習、評価過程	3.0	2.9	2.8
IV. 経営、管理過程	2.9	2.9	2.7
V. 入学	3.0	3.0	3.0
VI. 卒業、就業、進学	2.8	2.8	1.8
VII. 地域社会、国際交流	3.0	3.0	2.7
VIII. 研究	2.0	2.0	1.6

